第４学年　外国語活動学習指導案

１　単元名　　『クリスマスにはトーストアートを！』
Let’s Try!2 Unit7「What do you want?」

２ 単元の目標

・食材の言い方や, 欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
（知識・技能）

・相手に伝わるように工夫しながら必要な食材と数を尋ねたり, 答えたりする。
（思考力・判断力・表現力）

・相手に伝わるように工夫しながら必要な食材と数を尋ねたり, 答えたりしようとしている。
（学びに向かう力, 人間性等）

３　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食材の言い方や, 欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	ALT,友達へ贈るトーストアートに必要な食材を集めるために, 相手に伝わるように工夫しながら必要な食材と数を尋ねたり, 答えたりしている。	ALT,友達へ贈るトーストアートに必要な食材を集めるために, 相手に伝わるように工夫しながら必要な食材と数を尋ねたり, 答えたりしようとしている。

４　単元と指導の構想

（１）単元と児童

【児童の実態】

外国語活動の学習には楽しさを感じている児童が多いように感じるが, 外国語でやり取りをすることに対する楽しさよりも, ゲームをすることの楽しさの方に意識が向いているように思う。児童がこのままの意識で５年生になったとき, やり取りや発表などの評価がある外国語科の学習に抵抗感を感じるのではないかと考える。そこで, ４年生の時点でもやり取りをする楽しさを実感させる工夫が必要であると感じた。

本単元では, クリスマスに食べるトーストアートを ALT, ペアの友達へデザインをして贈るために, お店屋さんを開いて必要な食材（食材カード）を集めるという活動を行う。自分に向けてではなく, ALT, 友達に向けてトーストアートをデザインすることで, 相手意識・目的意識をもたせる。また, 全員が本単元の言語材料を使ってやり取りができるよう, 明確な役割のあるお店屋さんの活動を取り入れる。お店屋さんでは, 言語でのやり取りだけでなく, 食材カードのやり取りも同時に行う。そ

うすることで,相手に伝えたいことが伝わったかを視覚でも確かめることができる。外国語でのやり取りに苦手意識をもつ児童への手立てともなると考える。

【単元について】

本単元では，食材の言い方や,欲しいものを尋ねたり答えたりする表現を扱う。また,その表現を使って２往復以上のやり取りをすることもねらいとしている。第１時に児童にとってのメインアクティビティであるお店屋さんでのやり取りのモデルを提示し,単元の見通しをもたせるとともに言語活動に対する意欲を喚起する。第２～第５時では，お店屋さんを設定し,食材の言い方や,欲しいものを尋ねたり答えたりする表現を使ってトーストアートに必要な食材を集めることで表現に慣れ親しむ。その過程の中で既習表現を使って ALT やペアの友達の好みを尋ねたりしてお店屋さんの活動に向けての準備を行う場面も設定する。単元を通して３回のお店屋さんを開き,何度もやり取りを繰り返す活動を通して,児童の自信を高めながら学習を進めていく。

(2) 指導の構想

本単元で目指すゴールの姿は，「相手意識をもって必要な食材と数を尋ねたり，答えたりしている姿」である。そのために，本単元では外国語への苦手意識を取り除くための手立てを講じる。

手立て①単元を通して言語材料に十分慣れ親しませ，正しく表現を使えるようにする

ゴールの姿に向かうために，児童全員が本単元の言語材料である”What do you want?” “I want ~, please.”に十分に慣れ親しんでおく必要がある。そのためには，まず第1時から言語活動を取り入れる。児童にとっては”What do you want?” “I want ~, please.”の表現は既習であるが，本単元では初めて2往復以上のやり取りを行うため，取り扱う言語材料も多くなり，苦手意識をもつ児童がいると考える。早い段階で言語活動を通して，繰り返し表現を伝え合い，教師が中間評価と指導を行うことで，正しい表現でやり取りを行えるようにする。このことから児童が「できた」「言えた」という知識・技能面での自信を高め，思考活動を楽しむ余裕を生まれさせたい。

手立て②獲得した正しい表現をもとに，相手意識をもったやり取りを行う

相手意識とは，お店屋さんの場面でTwo，Please. と欲しい食材の数を伝える　ために，ジェスチャーを入れたり，問い返しをしたりする姿である。手立て①で　児童は自信を持ってお店屋さんでのやり取りを行うことができる。しかし，まだ　相手意識が低いと考えられるため，困ったこと，できたことの二つを振り返る場　面を設ける。また，そこで出た困ったこととその解決策を全体で共有する。それ　を基に，個人でのめあてを設定させた後，お店屋さんの活動を行い，最後に「できたこと」を振り返る。その都度，できたことを賞賛し，自信に繋げさせる

手立て③相手や目的を変えながら,繰り返しやり取りをする「お店屋さん」の場を複数設定する

クリスマスに食べるトーストアートをALT,ペアの友達へデザインをして贈るために必要な食材(食材カード)を集める「お店屋さん 」の場を言語活動として設定する。店員役,お客役という明確な役割を児童全員に与え,前半・後半の入れ替え制で行う。

やり取りの場を児童全員に保障するために,やり取りをする相手,目的を変え,繰り返しやり取りができるよう,お店屋さんに３つのルールを取り入れる。１つ目は,第３時ではプレお店屋さんとして「自分のためのトーストアート」を,第４時では「ペアの友達へのトーストアート」,第５時では「ALTへのトーストアート」というように買い物の目的を毎回変える。

２つ目は,トーストアートには４種類以上の食材を使うこととする。

３つ目は,お店屋さんでの買い物は,１回のやり取りにつき１種類の食材を買うこと,毎回相手を変えて買い物をすることとする。そうすることで,1回のお店屋さんの活動につき,全員が４回以上のやり取りをすることができる。児童全員にやり取りの場を保障することで,誰一人取り残すことなく,言語活動を行えるようにする。

５ 単元の指導計画

時間	ねらい（★）と学習活動（○）	評価　（評価方法） 【知】・【思】・【主】
1	★ALT,ペアの友達にクリスマスに食べるトーストアートをデザインして贈るために,お店屋さんを開いて必要な食材を集める活動に興味・関心をもち,学習の見通しをもつ。 ○お店屋さんのやり方を理解し, ゴールの姿,必要な表現について確認する。 ○食材の言い方に慣れ親しむ ○What do you want? I want ～, please.の表現を使ってやり取りをする。	本時では,記録に残す評価は行わないが,目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても,教師が児童の学習状況を確認する。
２ （本時①）	★自分で食べるトーストアートに必要な食材を欲しい食材や数を尋ねたり,答えたりする表現を使って集める。 ○モデルを聴き, 欲しい食材や数を尋ねたり,答えたりする表現を知る。 ○店員役とお客役に分かれ,前半後半で役割を交代してお店屋さんを開き,必要な食材を集める。 ○前半後半の間にやり取りを通しての困り感を共有する。	本時では,記録に残す評価は行わないが,目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間 においても,教師が児童の学習状況を確認する。

3 4	★ペアの友達に贈るトーストアートに必要な食材を欲しい食材や数を尋ねたり,答えたりする表現を使って集める。 ○ペアの友達の好みを尋ね,買い集める食材と数を決める。（第３時） ○店員役とお客役に分かれてお店屋さんを開き,必要な食材を集める。（第３時と第４時で役割を交代する） ○前半後半の間にやり取りを通しての困り感を共有する。 ○作ったトーストアートをThis is for you.と言ってペアの友達に贈る。 ○ALTの好みを尋ねる。（第４時）	（話すこと「やり取り」の記録に残す評価） 食材の言い方や,欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。 【知】（行動観察,振り返りの記述）
5 （本時②）	★ALTに贈るトーストアートに必要な食材を相手に伝わるように工夫しながら必要な食材と数を尋ねたり,答えたりして集める。 ○友達のやり取りの良い姿から,相手に伝わるように工夫することの良さを知る。 ○店員役とお客役に分かれ,前半後半で役割を交代してお店屋さんを開き,必要な食材を集める。 ○作ったトーストアートをThis is for you.と言ってALTに贈る。	相手に伝わるように工夫しながら必要な食材を尋ねたり,答えたりしている。 【思(主)】（行動観察,振り返りの記述）

6　本時の計画　（２時間目／全５時間）

(1) ねらい

自分で食べるトーストアートに必要な食材について，相手を変えて何度もやり取りをしたり,やり取りを通しての困り感を共有したりすることを通して，欲しい食材や数を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。

(2) 構想

本時では,児童が事前に考えた「自分で食べるトーストアート」に必要な食材をお店屋さんを開いて集める。どの児童も欲しい食材や数を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ,次時のお店屋さんでの活動で自信をもってやり取りができるよう,次の手立てを取り入れる。

手立て①相手を変え,何度もやり取りをする場を保障する

お店屋さんにルールを設け,全員が複数の相手とやり取りができる場を保障する。活動の際,児童の活動の様子を観察し,やり取りに困り感をもつ児童を把握する。その児童に

対しては,その場で一緒に表現を確認したり,活動を一旦止めて,表現の仕方を全体で再確認したりして支援をしていく。

手立て②お店屋さんの前半・後半の間にやり取りを通しての困り感を共有する

前述の手立て①では,教師側から困り感をもつ児童を把握するが,教師だけの見取りでは支援は不十分であるため,児童からもやり取りに対する困り感を出させたい。そこで,お店屋さんの前半・後半の活動の間にやり取りをしてみての振り返りをする。その際,やり取りを通して困ったことを問う。児童から出た困り感に対して「どうしたらよいか。」と全体に返し,表現を再度全体で確認したり,ペアでやり取りの練習をしたりすることで児童が後半のお店屋さんでのやり取りに生かせるようにする。

(3) 展開

学習活動	教師の働きかけと予想される児童の反応	■評価規準（方法） ○留意点
１．あいさつ （１分）	T1:Good afternoon. How are you? C1:Good afternoon. I'm fine. T2:I'm fine too.	
２．Warm-up （２分）	Let's chant.	○前時で使った表現をチャンツを歌いながら復習する。
３．学習課題の確認 （２分）	T3:前回,自分で食べるトーストアートにはどんな食材が必要か事前に考えておいてねと話をしましたね。今日はどうするのでしたか。 C2:お店屋さんを開いて必要な食材を集める。 お店屋さんを開いて,自分で食べるトーストアートに必要な食材を集めよう。	○本時の言語活動を全員で確認し,学習の見通しをもたせる。
４．モデルトークを聴いてお店屋さんでのやり取りの見通しをもつ （６分）	T4:お店屋さんでは,どんなやり取りをするのでしたか。 C3:What do you want?で欲しいものをお客さんに尋ねる。 C4:I want ~ ,please.と言って欲しい食材を答える。 T5:That's right. Let's listen to a model talk. A : "What do you want?" B : "I want strawberries please. A : "How many?" B : "Two,please." A : "OK. Here you are. B : "Thank you." A : "You're welcome."	○どんなやり取りをするのか児童から考えを吸い上げることで,モデルトークを注意深く聴く意識をもたせる。 ○モデルトークを聴かせることで,やり取りの見通しをもたせる。 ○「どんなことが聞こえたか。」と問

	T6: What did you hear? C5:How many?で数も尋ねていた。 C6:Two please.と答えていた。 T7:お店屋さんを開く前に練習をしてみましょう。 Let's practice with your friends.	い, 児童から考えを吸い上げる。必要に応じてもう一度モデルトークを聴かせることで児童により注意深く聴く意識をもたせる。
５．お店屋さん （１０分） ６．やり取りを通しての困り感を共有する （８分）	T8:Let's play main activity. （お店屋さん前半） T8:やり取りをしてみて困ったところはありましたか。 C8:ピーマンが欲しかったのに言い方が分からなくなった。 C9:I want green peppers.と言えばいいよ。 C10:何が欲しいのか尋ねたかったのに尋ね方が分からなくなった。 C11:What do you want?と言って尋ねるよ。 C12::数の尋ね方が分からなくて,会話が止まっちゃった。 C13:How many?と言えばいいよ。 C14:お客さんに,Thank you.と言われた時の返し方が分からなかった。 T9:Thank you.と言われたときは,何て返したらよかったかな。 C15:You're welcome.と言うといいよ。 T10:後半に入る前に,今確認したことを生かして練習をしてみましょう。 Let's practice with your friends.	○ペアと交互で店員役, お客役になってやり取りの練習をし, やり取りの見通しをもたせる。 ○やり取りに困り感をもつ児童に対しては, その場で一緒に表現を確認したり, 活動を一旦止めて, 表現の仕方を全体で再確認したりして支援を行う。 ○ペアと交互で店員役, お客役になってやり取りの練習をし, 後半でのやり取りの見通しをもたせる。
７．お店屋さん （１０分） ８．振り返り （５分）	T11: Let's play main activity. （お店屋さん後半） T12:欲しかった食材は集められましたか。前半の後にみんなで確認したところはうまくいきましたか 。 C16:What do you want?でお客さんに欲しいものを尋ねられた。 C17: 会話はちょっと止まったこともあったけど, 何回もやっていくうちに止まらずにできるようになった。 C18:Thank you.と言われたときに You're	○前半の後に確認したところがうまくいったかを問い, 達成感を共有する。

９．あいさつ （１分）	welcome.と返すことができた。 T13:Great!次回のお店屋さんでも欲しい食材は集められそうかな。 C19:できそう！ T14: Let's reflect today's lesson. T15:That's all for today. C20:See you next time.	

(4) 評価

自分で食べるトーストアートに必要な食材について, 相手を変えて何度もやり取りをしたり, やり取りを通しての困り感を共有したりすることを通して，欲しい食材や数を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいたか。（行動観察・振り返りの記述）

６ 本時の計画　（５時間目／全５時間）

(1) ねらい

ALTに贈るトーストアートに必要な食材について，友達のやり取りの良い姿を全員で共有したり, 相手を変えて何度もやり取りしたりすることを通して，相手に伝わるように工夫しながら必要な食材を尋ねたり, 答えたりしている。

(2) 構想

本時では，児童が事前に考えた「ALTに贈るトーストアート」に必要な食材をお店屋さんを開いて集める。本単元のゴールの姿である「ALT, 友達へ贈るトーストアートに必要な食材を集めるために, 相手に伝わるように工夫しながら必要な食材と数を尋ねたり, 答えたりしている姿」を達成するために, 次の手立てを取り入れる。

手立て①友達のやり取りの良い姿を共有し, 相手に伝わるように工夫することの良さに気付かせる

本時では２度, 友達のやり取りの良い姿を共有する場を設ける。１度目は, 前半のお店屋さんを開く前に前時の児童の振り返りから友達のやり取りの良い姿を抜粋し, いくつか紹介をする。児童に「なぜ良いと思うか。」を問い, 相手に伝わるように工夫することの良さに気付かせる。２度目は, 前半のお店屋さんを開いた後に, やり取りをした友達の良い姿を問い, 共有をする。１度目の共有の場で出なかった工夫や, 工夫をしたことの良さを確認し, 後半のお店屋さんに生かせるようにする。

手立て②相手を変え, 何度もやり取りをする場を保障する

本時では, 友達のやり取りの良い姿から相手に伝わるように工夫することのよさに気付かせたい。そこで, 決まった相手とやり取りをするのではなく, より多くの友達とやり取りができるよう, ２～４時間目で行ってきたお店屋さんと同じルールで活動を行う。

(3) 展開

学習活動	教師の働きかけと予想される児童の反応	■評価規準（方法） ○留意点
１．あいさつ （１分） ２．Warm-up （２分） ３．学習課題の確認 （２分）	T1:Good afternoon. How are you? C1:Good afternoon. I'm fine. T2:I'm fine too. Let's chant. T3:前回はお店屋さんを開いて，友達に贈るためのトーストアートに必要な食材を集めましたね。今日は最後の活動です。どうするのでしたか。 C2: ＡＬＴに贈るトーストアートに必要な食材を買う。 お店屋さんを開いて，ALT に贈るトーストアートに必要な食材を買い集めよう！	○お店屋さんでのやり取りに必要な表現をチャンツを歌いながら復習する。 ○本時の言語活動を全員で確認し，学習の見通しをもたせる。
４．前時の振り返りを紹介し，相手に伝わるように工夫することの良さに気付く （７分）	T4:前回の振り返りに友達のやり取りのこんなところが良かったと書いてくれていたので紹介しますね。 「お客さんが,Two please.と言った時に，指で２と表してくれたところ。」 「店員さんが，orange?と確認してくれたところ。」 「Here you are.と言って食材を渡すときに目を見てくれたところ。」 みんなは良いと思うかな。 C4:良いと思う。 C5: 指で２と表してくれるとお店屋さんの人が分かりやすいから良いと思う。 C6:食材を確認してくれるとお客さんに対して丁寧で良いと思う。 C7:確認すると渡す食材を間違えないから良いと思う。 C8:目を見て渡すところもお客さんに対して丁寧で良いと思う。 T5:指で示したり，確認をしたり，目を見て話したりすると，相手に分かりやすくて丁寧だと考えたのですね。今日のお店屋さんでも，どれかが使えるといいです	○前時の児童の振り返りから友達のやり取りの良い姿を紹介し，相手に伝わるように工夫することへ意識を向けさせる。 ○必要に応じて工夫することがなぜ良いと思うのかを問い，相手に伝わるように工夫することの良さに気付かせる。 ○いくつかの方法か

	ね。 では,お店屋さんを開く前に練習をしてみましょう。 Let's practice with your friends.	ら,児童が必要に応じて使えるように提案する。
４．お店屋さん （８分） ５．友達のやり取りの良い姿を共有し,相手に伝わるように工夫することの良さに気付く （４分） ６．お店屋さん （８分） ７．活動の振り返り （３分） ８．トーストアートを贈る （５分） ９．振り返り （４分） １０．あいさつ （１分）	T6:Let's play main activity. （お店屋さん前半） T7:やり取りをしてみて,友達の良かったところはあるかな。 C9:食材だけじゃなくて,数も確認してくれて,丁寧だった。 C10:Here you are.と言って渡したら,目を見て Thank you.と言ってくれて嬉しかった。 C11:食材を言うとき，協調して言ってくれていたから聞き取りやすかった。 T8: 今出た方法も後半の活動で使えそうですね。 Let's play main activity. （お店屋さん後半） T9: 今日は,工夫をしてやり取りをしてみましたね。やってみてどうでしたか。 C12:丁寧でよかった。 C13:目を見て話してくれて嬉しかった。 T10:上手にやり取りをして,食材を集めることができましたね。ワークシートを完成させて，ＡＬＴにプレゼントしましょう。 C14:This is for you. ALT:Thank you. It's very good! T12:素敵なトーストアートがたくさんできましたね。ＡＬＴにも喜んでもらえてよかったですね。 Let's reflect today's lesson. T13:That's all for today. C15:See you next time.	■相手に伝わるように工夫しながら必要な食材を尋ねたり,答えたりしている。（行動観察） ○１度目の共有の場で出なかった工夫や,工夫をしたことの良さを確認し,後半のお店屋さんに生かせるようにする。 ○ALTにもお客役でお店屋さんに参加してもらい,児童のやり取りを称賛してもらう。 ○ALTにも活動の振り返りを問い,児童のやり取りを称賛してもらう。 ○必要に応じて,プレゼントを渡す時の表現を全体で確認する。

(4) 評価

ALT に贈るトーストアートに必要な食材について，友達のやり取りの良い姿を全員で共有したり,相手を変えて何度もやり取りしたりすることを通して， 相手に伝わるように工夫しながら必要な食材を尋ねたり,答えたりしているか。（行動観察・振り返りの記述）